

# 養護教諭が行う知的障害のある生徒の性に関する指導の工夫

## —個別指導教材の開発と指導実践—

鶴岡尚子 藤田絵里子\*<sup>1</sup> 小畑伸五 中筋千晶 辻岡麻起子 北岡大輔 林 修\*<sup>2</sup> 衣斐哲臣\*<sup>3</sup> 則定百合子\*<sup>4</sup>

\* 1 附属三校教育相談コーディネーター \* 2 和歌山大学教育学部・本校校長 \* 3 \* 4 和歌山大学教育学部

### 1. はじめに

本校では、平成 27 年度から高等部の知的障害が軽度である生徒への性に関する学習の取り組みを始めた。なぜなら、卒業を目前に控えた生徒たちに対して、今抱えている課題に対応する力をつけるだけでなく、卒業後の生活場面での性の安全も保障できるような教育が必要と考えたからである。これは、担任教師たちにも共通した願いである。

これまで、集団での指導と個別指導を組み合わせることで効果的な学習プログラムとなるのではないかと考え、試行錯誤しながら実践を重ねているところである。ここでは、一人一人の特性に応じた指導を行うための個別指導用の教材冊子「パスポート」の作成とその活用について取り組んできた。その第一歩として、平成 27 年度からこの冊子の作成と試験的な使用を始めた。

今回は、個別指導用の教材冊子「パスポート」の作成過程について述べるとともに、昨年度から指導の効率化を図るためのアセスメントツールとして作成したアンケートの適用の可能性についても合わせて報告する。

### 2. 実践の目的

知的障害のある本校高等部普通科総合産業コースに在籍する生徒を対象に、個別指導用教材「パスポート」を用いた養護教諭による個別指導によって、性に関する課題に対して自ら適切に判断し、行動できる力をつけることを目指した。

### 3. パスポートの作成

#### (1) パスポート作成のプロセス

「パスポート」を作成するために、ダイヤモンドとニーズの視点から学習内容を考えてみた（詳しくは本校研究集録第 19 号を参照されたい）。他にも児童養護施設で作成された、施設内の児童間暴力防止を目的としたプログラムや、児童相談所保健師が行う性被害児のための性教育プログラム、また、性問題行動のある知的・発達障害児者のためのワークブック等も参考にした。これらは性加害者への再犯防止であったり、性被害者への再被害防止であったりすることを目的としたプログラムである。ここで注意したいのは、この「パスポート」を用いた指導の対象となるのは、必ずしも性被害、性加害の経験がある生徒ではないということである。

本校の現状としては、生徒間での性的な問題行動が見られたり、過去に被害体験をもつ生徒がいたりすること、本人は意図しないままに社会規範に反する行動をとってしまう生徒がいることなどである。このことから考えると、「パスポート」で学ぶ内容は、性暴力を予防し、性の被害者にも加害者にもならないために参考にできると考えた。なぜなら、本校での過去の性被害児や加害児に見られる特徴と、文献に見られる性被害者、加害者の特性や考え方に類似する部分も見られたからである。

これらの点をもとにして、さらに障害のある生徒たちの特性や課題を踏まえてアレンジするとともに、少年鑑別所や児童自立支援施設の心理専門家からの話を聞き、法的なルールについて学ぶことも取り入れた。少年鑑別所統括専門官の話では、自分の行為が性的逸脱行為、虞犯行為に値することを加害少年たちは施設に入って初めて知り、驚くことが多いという。本人はスキンシップやコミュニケーションのつもりであったそうだ。「事件を起こし、矯正施設に入ってくる時には手遅れであり、予防のために早い段階での法教育が必要である。」とも話してくれた。そこで、得られた専門家の提案をプログラムにも取

り入れることにした。

## (2) パスポートの内容

「パスポート」の内容は、固定するのではなく指導の中で生徒から出てきた質問や、関わった事例から見えてきた学習課題等から随時追加したり修正を加えたりしている。作成を試みている「パスポート」は、決して完成したものでなく、今後も実践を通じて検討を重ね、実態に応じて内容を改訂していくことを前提としたものである。

表1 パスポートの概要 一回の指導時間 20分～40分

タイトル		
境界線のルール	妊娠のサイン	性感染症
知っておきたい生理のこと	避妊	恋を語ろう
あなたの脳と心・体	こんな時どうする？情報源	*今日はちょっと聞いてほしい
男性の性器	性の被害・加害	*こんなこと知りたい
人工妊娠中絶	いろいろな性、いろいろな家族	

## (3) 個別指導の対象者について

当初は卒業を控えた総合産業コース3年生全員に対して、一人ひとりの生徒の特性によって内容に強弱は付けるにしても全てのページを指導することを想定していた。しかしながら、この方法で指導すると一人に対して少なくとも10回の指導時間を確保する必要がある、養護教諭一人では対応が難しくなるといった問題が生じてきた。そこで、生徒の性に関する指導のニーズの高さに応じた対応をするとともに、必要な内容の一層の重点化を行うこととした。具体的には、まず個々に時間を設けて保健室で性に関するアンケート（詳細は後述する）。次に、アンケート結果を踏まえて養護教諭と面談を行った。このとき、アンケート結果と担任による行動観察、これまでの性に関するエピソード等から総合的に学習の必要性について判断した。重点的に指導する必要があると判断した生徒に対しては、頻度はそれぞれ異なるものの定期的に学習の機会を設定した。一方で、気になる兆候がなく、ニーズがさほど高くないと判断した生徒には、いつでも保健室や担任に性の相談をしてもよいことを伝え、基本的には性に関する学習についてはクラス集団での指導に委ねることにした。しかしながら、その生徒に気になる行動が見られた時には、継続的、段階的に関わるための準備は行った。こうすることで、考え方や行動の改善が期待される生徒から優先的に個別指導を行い、効率化を図ることができると考えたのである。

## (4) 性に関するアンケートについて

質問内容は、「自分の体のことをよく分かっている。」等あえて漠然とした問い方をしている。なぜなら、アンケート記入後に行う、記入内容に基づく養護教諭との対話によって、生徒がそのように回答した背景や本音を引き出すことに重点を置いているからである。アンケートがアセスメントとしての機能を果たし、その結果により指導の密度や重点項目を決定することができるようにしたのである。中でも、男子生徒においては、質問④の「私は、今、性のことで悩みが多い。」に対する回答を重要視した。なぜなら、この質問の意図は「今、悩みや不安があるか。これまでどのような方法で悩みを解決してきたか。マスターベーションを適切な方法で行っているか。どのような性的嗜好をもっているか。」といった情報を得ることであり、これへの回答の内容から、性加害のような社会規範を逸脱する行動の兆候として捉えることができると思ったからである。そのうえで、面談では性的嗜好を話題にした際の顔の紅潮、瞳孔の開き、勃起の様子等の生理的興奮度や、女性に対する歪んだ考え方や自己中心的な言動等の、認知の偏りがないかを確認する。こうした気になる兆候が見られた場合は、法的なルールについて学んだり、相手や周囲の人がどのように感じるのかを考えたり知ったりする学習を積極的に取り入れることにした。

個別指導の評価については、同じアンケートを事後にも実施し、事前・事後アンケートを比較しながら、変化の有無やどのような意識の変化があったのかを生徒との対話を通じて確認する。この結果から、知識・認知レベルで性被害・加害の気になる兆候がなくなったり、緩和されたりしたか、また、性的に健康な選択肢で迷った時に、他者に相談することへの抵抗が少なくなったかどうかを診断した。

加えて、本人の話や担任の行動観察により、NOと言えるようになったかどうか、異性との距離の取り方に変化があったかどうか等を判断する。これによって「パスポート」の行動レベルでの効果を評価していくこととする。

#### 4. 実践から（途中経過報告）

現在、数名の男子生徒と継続的に関わりながらパスポートを用いた個別指導を行っているところである。未だ全ての指導を終えていないため、事後アンケートまで実施できていない。これには、指導終了とする時期の判断が難しいことが要因として挙げられる。具体的には、高1の段階でアンケートを行い、特に気になる兆候は見られなかったとしても、高2や高3になってから初めて恋愛感情が芽生えたり、性的な事に興味が出てきたりすることもある。そのため、本人が興味を持ち始めたり、知りたいと思ったりし始めた時期を逃さず、そのタイミングで正しい知識を提供し、一緒に考えることが指導効果を高めることにつながると考えている。このような時期は、性被害や逸脱行為が生じるリスクが高まる時期でもあり、予防教育を行うのに適しているといえる。そのためには生徒の成長の経過を見守りつつ、その時に見られる性の課題に合わせてパスポートの内容を改良しながら指導を行うことが必要である。こうしたことから、「パスポート」を用いた指導のタイミングは形式的なものではなく、生徒の成長・成熟に即して極めて流動的となる。それ故、開始時期、終了時期の見極めは極めて重要となる。これが今回個別指導を形式的に終了しない理由である。

現在関わっている生徒については、高等部を卒業するまでには指導を一区切りし、事後アンケートを実施する予定である。この生徒の様子と指導の概要を表2に示す。ここでは、普通科の生徒も含まれていたり、パスポートの内容を基本としてより易しく説明したり、ポイントを絞って話をするなど、実態に応じた教材のアレンジを施している。

表2 アンケートで気になる兆候が見られた生徒の様子と指導の概要

A君	幼児に対して興味がある。性的な逸脱行為に関する法律について学んでいる。加えて、性的な興奮を抑えたり、周囲に不快感を与えない行動について学んでいる。
B君	好意を寄せる女子生徒の体を触ったり、道端で抱き寄せたりした。体のプライベートゾーンや公共の場でのマナーやルール、相手の同意をえることなどについて学んでいる。
C君	過去に女子生徒の体を触ったことがある。異性との距離の取り方のルールを守っているか確認したり、アダルト情報の中にみられる性や女性への歪んだ考え方や嘘の情報について学んでいる。

いずれの生徒に対しても、単にパスポートを用いた学習のみを行っているわけではない。むしろ、養護教諭としては、日常生活のことや家庭のこと、好きなアニメ等の話題から最近の興味の方向を探りつつ、気になる言動が見られたポイントで、考え方や行動に関して少しの軌道修正を行っている事が多い。性のことで気になる生徒は上記3名のみではない。生徒たちは性について語ることをいけないことだと思っている場合が多いため、素直に自分の気持ちを言えないことがある。また、親や教師に叱られることを恐れるために嘘をついてしまうこともある。このような様子を見せた生徒たちに対して養護教諭は、“性のことは話してもいい。困った時は大人を頼っていい。”というメッセージを指導の中で伝えていくことが重要視しながら関わっている。こうすることで、養護教諭と性に関する話ができる“安全な関係”

を築くことに繋がると思うからである。こうした関係性を築くことは、将来困った時に一人で悩み続けるのではなく、信頼できる誰かに相談できるように、相談へのハードルを下げ、心を開いてことにつながっていくものと期待している。

## 5. おわりに

現在、パスポートを用いた指導を試験的に行っているところである。この取組みにおいては、「パスポート」の内容を網羅することが性に関する指導の終了を意味するものではないことを強調したい。「パスポート」は指導のためのツールでしかないのであって、これを利用しながら生徒の性に関する考え方を理解し、課題を把握し、明確な目標に焦点化することが何より重要である。こうすることで、パスポートを用いた指導が個別化され、一人一人の特性に応じた性に関する指導プログラムになると考える。

今後は、事前・事後アンケートの比較や行動観察による指導効果の把握、教材の内容精選、クラス集団への指導との連携の方法を明確にすることなどを課題としてさらに実践を積み重ねていきたい。

## 6. 文献

島根県中央児童相談所（2011）～幼児・小学校低学年向け～児童養護施設における性（生）教育プログラム 資料・台本集.

榊原 文（2014）児童相談所保健師が行う『性被害児のための性教育プログラム』の作成と評価. 島根大学医学部紀要第 37 巻